

日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月		本県沖で観測した対馬暖流域の水温は9月にかなり高めとなり、北上流量も多めとなった。 8月下旬、小泊沿岸でソウダガツオの稚魚が採集された。		

機関名: 秋田県農林水産技術センター水産振興センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月		9月1～2、6日に実施した海洋観測では、表層水温はすべての観測点において、28℃あるいは29℃台と平年に比べて2.9～4.9℃高く、全域で「はなはだ高い」状態であり、ほぼ全域で水深10m層水温と表層との差が2℃未満であった。 また、男鹿市椿漁港内の生け簀籠に設置した記録式水温計による水温観測では、表面、5m層とも、7月下旬から9月上旬にかけて、過去3カ年に比べ2～3℃程度高めに推移した。	水産振興センターの取水水温は、7月上旬から上昇し、平年に比べ2～4℃高く推移した。9月3日には過去最高の29.2℃を記録した。栽培関係では親魚養成中のヒラメが約2割程度斃死したほか、クルマエビ稚エビの成長が不良であった。これらは、この間の高水温の影響と考えられる。	

機関名: 山形県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月	なし	梅雨明け(7月中旬)以降、記録的猛暑とともに海水温も上昇し8月の表層平均水温は29.8度、これは平年差+4.3度とはなはだ高い状況であった。	なし	9月の底びき網漁業解禁からフニザメ(大型のサメ類)による魚取部噛み切り被害が続出した(沿岸から沖合まで漁場に関係なく、例年より大型のサメ数匹が船と一緒に着いて離れない状況が多発した…禁漁期間前の6月から増加の兆しがあった)。

機関名: 新潟県水産海洋研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月	特になし	①9月(8月下旬～9月上旬)の海況: 海洋観測海域(北部、南部、外佐渡、両津湾)の表層水温が、いずれも29℃以上となり、1970年以降最も高かった。 ②加茂湖においてヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの赤潮が発生し8月16日には20,000細胞/mlに達した。	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月	○小型いか釣り漁業(するめいか)の漁期が長く続き、7月中旬までまとまった水揚げがみられた。 ○大・中型まき網のクロマグロは不調で、本県所屬船は7月で操業を切り上げた。 ○9月に入り、アカカマス・アオリイカが好調	○猛暑の影響もあり、表面水温は8月上旬から9月上旬にかけてかなり高めで推移した。9月上旬の沿岸観測パイの水温(水深10m)は、加賀沿岸・能登半島外浦沿岸で28.4℃～29.6℃で、過去3年の平均水温に比べ2.0～3.6℃高めとなった。内浦海域では29.4℃～30.1℃で、過去3年の平均水温に比べ3.5～3.9℃程度高めとなった。	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 7月～9月	アオコ(ブリ当歳魚)の漁獲が極端に悪く、過去10年平均の数%程度 ソデイカの漁獲が極端に悪く、過去10年平均の0.1%程度	表面水温が例年よりもはなはだ高め(2.0℃程度)からかなり高め(1.0～1.5℃)で推移し、8月上旬には30℃を超える日が数日見られた。	養殖トラフグのハダムシの発生時期が9月中旬以降で、例年よりも1カ月以上遅い。高水温の影響と考えられる。	

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)	
平成22年 7月～9月	<p>◎7～9月の漁獲量がカタクチイワシは98トン(平年同期467トン)、マアジは112トン(平年同期552トン)と前期からの不漁が続く。</p> <p>◎コシナガは8月の漁獲量が約4トン(同月平年1トン未満)と好漁。</p> <p>◎8月末～9月上旬、クロマグル幼魚(大きさ約10cm)がたびたび定置網に入網。</p>	<p>◎7月やや低め(19.0℃、6/28～29観測)だったが、7月下旬以降急激に昇温し、8月かなり高め(24.6℃)、9月はなほ高め(26.6℃)となった(沿岸定線観測)。</p> <p>◎海洋センターの取水海水温(水深12mから取水)も、7月上旬までは近年の10年間平均値(平年値)と比べ、平年並(最高水温24.4℃)であったが、下旬以降から急激に昇温した。8月上旬～下旬までやや高め～かなり高め、9月上旬～下旬まではなほ高めで推移した。また、9月上旬には今年最高水温29.5℃を記録した。</p>	◎トリガイ育成で成長低下や一部生残率の低下事例が認められた。	

機関名: 兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)	
平成22年 7月～9月	特になし	7月下旬から9月中旬にかけて、香美町香住区地先表層水温が平年値に比べ2℃以上高い日が続いた。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)	
平成22年 7月～9月	<p>・第一鳥取丸でニシン大量漁獲。底魚分布調査中、8/23に3543.73、13228.81、水深186mで約75kgの漁獲。第一鳥取丸の漁獲としては非常に多い漁獲であった。</p> <p>・8月に行ったハタハタ分布調査では、今年は1歳魚主体であり、1歳魚の体長も昨年より1cm程度小さかった。</p> <p>・アカイカ(ソデイカ)の来遊が遅れている。</p> <p>・8月中旬以降、境港のまき網でハマチ(2kg前後が主体)が多く獲れ続けている。</p> <p>・境港の今年のクロマグル水揚量は、30kg前後の小マグル主体に654トンで過去5ヶ年間で最も少なかった。</p> <p>・例年クロマグルの水揚は連続して行われることが多いが、今年は水揚が断続的であったことが特徴的であった。</p> <p>・8月に水揚されるクロマグルは、例年大型魚が主体となるが、今年は30kgサイズしか水揚されなかったことも特徴的であった。</p> <p>・6月までの低水温の影響か、マアジの来遊が1月程度遅れた。</p>	<p>本県中部にある沿岸漁業部の沈砂槽の水温が9月上旬から急激に上昇し、平年より3.1℃高い28.5℃となった。</p> <p>隠岐汽船のフェリーで観測している隠岐海峡の表層水温が、7月中旬以降高めで推移しており、9月上旬には平年より3.1℃高い29.3℃に達した。50m水温も8月中旬から高めで推移し、9月下旬時点で平年より4.2℃高い24.0度となっている。</p>	なし	なし

機関名: 島根県水産技術センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)	
平成22年 7月～9月	(8月)西郷地区、浦郷地区のまき網のブリ漁獲量は、それぞれ、平年の6倍、22倍であった。出雲地区の定置網によるマアジ漁獲量は、平年の1/10であった。	(8月)恵曇の水温は平年より2.2℃高く、かなり高めであった(10年に1回の出現確率)。	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)	
平成22年 7月～9月	8～9月に長門市沿岸の定置網でカツオの大量漁獲あり(通定置網本年8～9月漁獲量16トン、過去5年ほとんど漁獲なし)。	萩沖表層水温(旬平均水温)が、8月下旬～9月中旬に1964年以降最高値を記録した(8月下旬28.76℃、9月上旬28.88℃、9月中旬27.58℃)。		